

## 株式会社 IMAGICA TV 第 5 回番組審議委員会議事録

開催日： 2009 年 11 月 12 日（木） 10:30～12:00  
開催場所： 東京都港区白金台三丁目 19-1 株式会社 IMAGICA TV 内 会議室  
出席者：

放送番組審議委員	株式会社 IMAGICA TV
小倉 紀行	草野 雄次
植田 敬三	渡辺 浩
横田 栄三	野村 憲一
朝比奈 暁美	松田 健吾
犬養 亜美	小瀬 朋子
石川 俊之	高野 佳彦
小倉 茂	

(以上、敬称略)

議題：「洋画★シネフィル・イマジカ」、「食と旅のフーディーズ TV」および「歌謡ポップスチャンネル」の番組内容、編成内容に関する審議

配布資料：上記各チャンネル 11 月プログラムガイド  
各チャンネルメディアプロフィール

審議内容：

- ① 開会挨拶および最近の市場環境についてのご説明（草野雄次より）
- ② 各チャンネル編成担当より活動方針、編成方針の説明
- ③ 各チャンネルの番組、編成に関するご意見

### ◆『洋画★シネフィル・イマジカ』について

<編成より>

- ・ 視聴可能世帯数がようやく 300 万世帯を突破し、それに伴い視聴者層も多様化しており、その対応として、エンターテインメント系の大作などライトユーザーが入り口として親しみやすい向けラインアップを増やした。
- ・ クラシック/名画系作品については、特に HD 化を意識した「高画質化」を推進。
- ・ 加えて、他 CH との差別化として、「ここでしか視られない」名画の提供を重視。
- ・ 昨今特に欧州系のクラシック/名画を保有する配給会社が減少している。背景には各社の経営の厳しさがあり、従来であれば長期間保持していた権利を更新しないケースが増えており、そうした映画の放送権を当社で独自に欧州まで買い付けするケースが増えている。
- ・ 「欧州女優図鑑」シリーズはそういう背景から独自に買い付けた作品を元に編成しており、往年の名女優をフォーカスし、DVD 発売と連動した企画となっている。「ひまわり」「鉄道員」「髪結いの亭主」「美しき諍い女」などの官能系を含む。

- ・ いわゆる大人の恋愛ものの分野での名作も多いことから、性愛表現の激しいものについては金曜深夜帯に「ラブシネマ」という枠を設けて放送。
- ・ 他 CH との差別化として、8月にエディット・ピアフ「愛の賛歌」本編およびコンサートとドキュメンタリーをベーシック初放送、9月にはベネチア映画祭グランプリ受賞の「ラスト・コーション」、10月にはフランスで“幻の映画といわれた”「赤い風船」などをシネフィルらしい作品を投入。
- ・ クラシック、名画が埋もれないよう、この6月から「シネフィルはバーチャルな3つのシネコン」、というコンセプトで編成に取り組んでいる。“シネフィル1”が大作、新作系、“2”はクラシック名画、“3”はシネフィルらしいオリジナル、という範疇で、各々の劇場に入っていくようなCG演出を冒頭に設け、各々が放送、webで適正な露出がされるようにしている。
- ・ 社会との関わり、という視点でドイツ映画祭、イタリア映画祭への協賛、東京フィルメックスへの協力、9/21の国際平和デーに合わせた“Peace One Day”の提唱者ジェレミー・ギレー監督のドキュメンタリー“The Day After Peace”の放送などを実施。

#### <ご意見>

- ・ HDで、デビット・ボウイ「ジャスト・ア・ジゴロ」を是非見たい。本当にデビット・ボウイが綺麗なので
- ・ HPに載せられている市川さんのコラム、とても読み応えがある。よく知っている方が書かれるとこういう風に面白いのか、というのがよくわかる。他社は会員限定のサービスだが、こちらは登録など必要なく読めて贅沢な感じ。
- ・ オープニングCG、アールデコなイメージでシネフィルらしく、またアコードオンの音楽がいい。
  - CGはグループ会社のロボット製作。ただ、まだ完成形には至っていないと考えているので、更に手を加えてもっと良いものを、と認識している。
- ・ 欧州名画の権利の状況をもう少し詳しく教えてほしい。
  - 放送やDVD化などをハンドリングする権利は通常は5年間程度の独占、という形が基本で、従来は特定の配給会社がずっと更新して押さえていたが、なかなか商業ベースに乗りにくいこともあり、また昨今の市況も重なりそれらを延長せずに手放している傾向が顕著
  - DVDがも不況
- ・ ホラーはもうやらない？ 隠れた名作などたくさんあるのだが。
  - 3Dでやる、というのは面白いかもしれない
  - 当時のホラー映画は、HDマスターが現状はほとんど存在せず、やるとなれば自分が主導してHD化を進める必要があり、コストとの相談になる。
- ・ 拳銃無宿は元はモノクロ？
  - オリジナルはモノクロだが、ハリウッドでカラーライズされたものを今回は放送している。
- ・ 「さすらいの航海」という映画、ジェームス・メイソン、マックス・フォン・シドーなど、懐かしい往年のスターがこれでもかと思えて嬉しかったのだが、こういう作品を選ぶポイント、狙いは？
  - 往年の映画ファンに響く作品、というのは何なのか、という視点は常に持っており、当該作品においてはキャストの重厚さと作品自体の出来の良さ。今後はそれに「HD素材があること」という要素が加わってくる。

◆ 『食と旅のフーディーズ TV』について

<編成より>

- 9月より大きな改編を実施、「食のエンタテインメント CH」という位置づけをあらためておこないその前提でラインナップを強化している
- コンセプトの一つは「季節性・旬」であり、10月は“世界パスタデー”、11月は“ボジョレー解禁”、12月は“クリスマス”、2月は“バレンタイン”、3月は“お弁当”、と、各々の季節性、旬にちなんだ特集&特番製作を投入。社会性。
- また、食のエンタテインメントを考え直す ～ 従来の、シェフや一流の料理家のレシピ紹介番組は今まで数多く提供してきたが、加えてグルメ情報、本当の贅沢なグルメからいわゆるB級グルメまで、対象を主婦に限らずファミリーで見られる、というマス向けのラインナップを揃え、視聴者の裾野を広げることを意識した番組編成をおこなっている。

<ご意見>

- 3CHで料理のCHが一番大変かもしれない。「歌」や「映画」のように元から形のあるものを扱っているわけではないので、見ていて改編後の苦心が見えるようなところがある。
- 「彦摩呂」「くわばたりえ」などを見ていると、“どれが当たるか”といった感じで手探りしているように思える。視聴者からこれらの番組に要望があったのか？有料放送の場で民放で既にやっているような内容と同じ事をやっているのは疑問。
- 「みんなのパスタ」などは国内のものだけだったが、折角“世界パスタデー”にかけた企画なら文字通り世界の紹介をしてもらえればよかった。
  - 海外ものは1月からは日本初放送の新番組を含めて拡充して流す予定
- 昨今は“うちごはん”や“うち飲み”が流行りなので、そのあたりをターゲットにしてもよいのでは。一例だが日本で手に入る食材で作るフランス家庭料理を駐日大使館夫人が教えてくれたりしていて、意外と遜色なく美味しい仕上がりになる。こういうことが番組作りのヒントにならないか？
- 別の例だが、例えばキッコーマンという会社が世界の醤油料理、というサイトを立ち上げている。醤油メーカーなので醤油が必ず入るけど、例えばそういう切り口も企画のヒントになるのでは。
- 地上波に比べて安っぽい、という意見もあるが、カラーが違う。気にせず堂々と番組を作っていけばよい。
- 「シャトージャポン」の作り方は一つの道筋かも。あまりキャーキャー言わない作りが良かったのでは。
  - この特番は11月“ボジョレー”にかけてはいるが、実は国産にこだわったもので、日本で唯一の食のチャンネルであることから国産品を応援するようなシリーズを今後も使命感を持って手がけていきたいと考えている。
- 本編の収録はHD？
  - フーディーズTVの番組は2007年くらいから制作番組はすべてHD収録。HDでお届けが早くできるといいのですが・・・
- 「フーディーズトピックス」、低予算なのは仕方ないが、もっと楽しんで作ってもいいのではないか？霞ヶ関より乗ったのに次のシーンで横河の上りのサービスエリアのお弁当、という作りは違和感がある。前回昭和30年代にテフロンフライパン、というお話をしたがこれも同じでちょっとしたところの工夫や視点、こだ

わりがあって欲しい。

- ・ 「ドラ弁」はちょっと前まで「速弁」と呼んでいたが・・・
  - どちらも高速道路のサービスエリアのお弁当なのは同じ。最近はそのを買うことが目的でサービスエリアに来たり、有名な料亭やシェフプロデューサーのお弁当が売られたりしている。
- ・ プログラムガイドは非常に良くなった。色分けされたことでとても見やすくなった。苦心の跡が見える

#### ◆ 『歌謡ポップスチャンネル』について

<編成より>

- ・ 世の中は放送収入のみならず放送外収入を両輪で、という流れ
- ・ 広告収入が顕著な減少を見せる中、民放地上波が CS 有料放送向け向け新作ドラマを手がけるといった動きも出始めるなど、有料放送に注目が集まる機会。
- ・ 10月から JCN 17局で放送スタート、11/11よりひかり TV でスタートしたことにより全国の視聴者数の増はもちろん、東京近郊で視聴可能世帯が増える結果となり、殆どが東京にいるマスコミに対するアピールがしやすくなること、出演者のブッキングが非常にしやすくなる。
- ・ また、スカパー！HD の新規チャンネルにセレクト（2010年6月から）され、期待されているんだな、という実感と良い意味での緊張感を持って加入促進に貢献出来ればと考えている。
- ・ 演歌、歌謡で7割、フォーク、ニューミュージック、ロックで2割と、ほぼ変わりなく推移している。
- ・ 前回ご指摘いただいた番組初回放送の曜日/時間がばらばらだった件はご指摘を期に、毎週●曜日の時間固定、という形にあらためた。
- ・ 12月といえば紅白、に対抗、という形で“東西歌合戦”と銘打ち「関西歌謡大賞」「大江戸唄まつり」というイベントを取り上げた。これらは大阪、東京のレコード商組合が主催しており、これらはいわゆるレコード小売店の集まりで、演歌のセールスはひとつひとつの小さい小売店での売れ行きにかかっているという現状がある。今回の企画はこれら商組合とがっちり組んでのもの。
- ・ 「富澤一誠のミュージックギャラリー」は12月で最終回（総集編）となり、良いゲストに出演いただき、いい番組が出来たと自負している。
- ・ 「Classic Rock Jam」という、ハードロック、ヘビメタ時代のイベントで、ポール・ディアゴ（アイアン・メイデンの初代ボーカリスト）も出演されたものを独占放送。
- ・ 演歌については、知名度の有無が非常にはっきりしていて、今回は国民誰もが知っている美川憲一のコンサートを収録、放送をおこなった。45周年の節目でもあり、丁寧に作りこんだ。

<ご意見>

- ・ 美川憲一さんはコロッケさんとのコンビは相変わらず良い組み合わせ。
- ・ 著名な歌手で型が決まっているイメージだったが、普段 TV に出ているのと違う嗜好が見えた。「愛の賛歌」「生きる」を歌うのを見てある種感動を覚えた。
- ・ リサイタルはご本人の意向が強く反映されるものだと思うので、普段 TV で見ている彼とは異なり、本当に歌いたい世界がシャンソンなど別にあるのでは、と感

- じられ、そういった姿を掘り起こされているようで非常に良かった。
- ・ 持ち歌を歌われているのは正に定番なのだが、「愛の賛歌」などを歌うのを聞き、こんなに上手かったんだ、とあらためて感じた。
  - ・ このクラスの方のコンサートを放送するのは大変だった？
    - 通常だと非常にギャラ等の面で苦勞するが、今回は45周年をIMAGICAがものすごく綺麗に撮って残す、というコンセプトと一緒に作品を作りたいと提案したところ、快諾いただいた。
  - ・ 美川さんのタイアップ方法は他の大物歌手の方などにも通用する手法なのでは？
    - チャンネルとしてはもっと大物に出てもらうことが知名度を上げることにつながり、知名度が上がることでまた別の方が出演してくれる、という良いサイクルを作りたいと考えている。
    - 今後、大月みやこ、川中美幸は出演が決定している。
  - ・ 美川さんのものはきちんと歌謡ショーになっている。反面「関西歌謡大賞」は小さな箱の手作り感があって同じ演歌のショーの良い対比でもあり、どちらも違う楽しみ方ができた。
  - ・ 「大阪発流行歌ライブ」は非常に興味深く見た。あのような世界は久しぶり。
    - 新番組でまだまだフォーマットも定まっていないが、その状態でいろいろ評価をいただいて、良いものにしていきたい
    - 大阪は非常に演歌の強い土地柄で、公開録画はCATVの加入促進に繋がるものでもあり、CH採用のアピールもありわざわざライブにしている。
  - ・ 本人が生で歌っている本物の歌、現場で歌っている姿を伝える歌番組はやはり迫力、臨場感が違う。
    - そういうものを見たいニーズがあるはずなのに、最近の地上波はその手の番組を流さない、という状況が当CHの指示に繋がっていると考えている。
    - 世の中にないものをやればNo.1になれる、と信じて続ける
  - ・ 昔の「乾杯特捜部」ややしきたかじんの番組のように、おとなしく歌って聴いて、ではなくて居合わせた人が画面の中で一緒に歌う、というような大阪のテイストが好きで、東京でも同様の番組があればと思っていた。一緒に騒いで楽しむ、という感じがもっと出ればよい。
    - 大阪のテイストをもっと前に出そうと思っている。関西は出演者もちろん、お客さんが芸人だったりする、そのノリを出せたらいいと思っている。
  - ・ 「富澤一誠」はもっと続けて欲しい、終了は非常に残念。あの作りだったらもっと出て欲しい人がたくさんいる。
  - ・ 番組尺が30分なので、もっと長く見せて欲しい番組だった。枝葉末節のほんとに細かい話ほど面白いところがあって、もっと見たいと思わせる内容。
  - ・
  - ・ NHKで先日井上陽水の一時間番組が3日も4日も続いていた。見ているとその8割はいわゆるエピソードの類の枝葉末節の話だったりするのだが、そういう中で「らしさ」がだんだん出てきて伝わってくる。贅沢だがそういう作りができればよいと思う。富澤さんはあれだけの引き出しを持っている方なので、もっと存分に発揮してもらいたいと思う。
  - ・ 女性アシスタントは不要だったのでは。ルックスも今ひとつだしトークも的外れ。
  - ・ 加藤和彦さんの例ではないが、作り手側の責任として、失礼な言い方だが一世を風靡した方々がご存命の間にいろんな画を撮っておいて欲しいというのが切なる願い。60年代に活躍された方がそろそろ60代後半というお年頃になっている

ので、ある種 CH の使命として取り組んでいただきたい。

- ・ 今年には作詞作曲家の先生方もお亡くなりになられたが、非常に面白いお話を聞かせてくれる方々だった。いろいろなお話など記録に残しておければ、と思う。
- ・ その他にも名物ディレクターから見た制作秘話など、取り上げるべき方はたくさんいらっしゃるのでは、是非検討して欲しい。
- ・ 女性アシスタントが年上の男性から教わる姿勢、という構図がジェンダーの感覚からすると違和感がある。
  - このジャンルのアシスタントは非常に難しい。あまりにも知らない子を連れてくると成立しないのだが、中途半端に勉強してきてしまうとこれもまた成立しない。自分の生まれる前のことなので体感ではなく、うわべになってしまったりするので・・・
  - 「勉強するな、でも興味は持って欲しい」という按配が難しい。
- ・ 東ちずるさんが金子信雄さんの番組のアシスタントをやっていた時の控えめな気の利き方、機転のよさみたいな感じが出ればいいのだが。

④ 次回審議会は来年 5 月頃の開催の旨、確認する。

以 上